

平成 30 年度共同利用研究・研究成果報告書

研究課題名	和文：低温レーザー干渉計CLIO による重力波研究（Ⅱ） 英文：Study of Gravitational-wave by cryogenic laser interferometer CLIO in KAMIOKA Mine（Ⅱ）
研究代表者	大橋正健（東大宇宙線研）
参加研究者	東大宇宙線研 三代木伸二、内山隆、田越秀行、宮川治、端山和大 栗井恭輔、戸村友宣、早河秀章、上泉眞裕 東大地震研 新谷昌人 国立天文台 麻生洋一 産総研 寺田聡一 富山大 山元一広 長岡技術科学大 高橋弘毅
研究成果概要	<p>CLIO 本体は、水没事故以来、復旧作業を続けているが、未だ稼働できる状況ではない。その理由として、現在は KAGR の建設を一刻も早く完了し、国際共同観測に参加することが最優先されているからである。そのため、重力波研究者のマンパワーを全て KAGRA につき込んでおり、早急に CLIO を復旧させる見通しがついていない。ただし、併設している地球物理観測装置は順調に観測データを取りつづけており、この研究設備全体としては一定の研究成果を出している。研究環境が復旧できれば、次世代重力波観測装置の開発研究に使うことも検討しており、この設備を今後も維持していくつもりである。</p>
整理番号	F11